

作成日:2016年 1月29日
(前回作成日:2015年10月30日)

アセット トライ

期間運用報告書

自:2015年10月 1日

至:2015年12月31日

作成者 : AT ADMINISTRATION (GAYMAN) LIMITED

交付者 : 岡藤商事株式会社

〒104-0033 東京都中央区新川2-12-16
コールセンター 電話 0120 (33) 7639

A. ファンドの状況

1. 資産推移(販売、解約の状況)

単位:千円

計算期間 *1	前期末*2		期中解約			期中販売			期末	
	口数	総純資産	件数	口数	総額*3	件数	口数	総額*4	口数	総純資産
1999/2/1～ 1999/5/31	720.000000	720,000	0	0.000000	0	43	72.791622	70,000	792.791622	740,509
1999/6/1～ 2000/5/31	792.791622	740,509	47	84.050664	78,704	52	125.839074	114,000	834.580032	799,018
2000/6/1～ 2001/5/31	834.580032	799,018	40	114.758743	129,155	8	8.087742	9,000	727.909031	815,593
2001/6/1～ 2002/5/31	727.909031	815,593	31	44.387643	51,035	80	138.652441	161,000	822.173829	872,581
2002/6/1～ 2003/5/31	822.173829	872,581	53	215.272753	286,590	82	132.339191	175,000	739.240267	1,116,301
2003/6/1～ 2004/5/31	739.240267	1,116,301	24	31.843891	45,639	192	306.840111	453,000	1,014.236487	1,414,915
2004/6/1～ 2005/5/31	1,014.236487	1,414,915	45	62.586487	88,110	322	418.237374	582,000	1,369.887374	2,025,127
2005/6/1～ 2006/5/31	1,369.887374	2,025,127	95	461.930128	734,344	444	732.904334	1,226,000	1,640.861580	2,862,430
2006/6/1～ 2007/5/31	1,640.861580	2,862,430	159	326.531143	540,296	398	580.581296	973,000	1,894.911733	3,386,437
2007/6/1～ 2008/5/31	1,894.911733	3,386,437	224	332.721437	662,243	0	0	0	1,562.190296	3,571,161
2008/6/1～ 2009/5/31	1,562.190296	3,571,161	159	245.328954	551,663	0	0	0	1,316.861342	2,922,718
2009/6/1～ 2010/5/31	1,316.861342	2,922,718	74	104.247836	210,683	0	0	0	1,212.613506	2,496,116
2010/6/1～ 2011/5/31	1,212.613506	2,496,116	155	212.923305	466,843	0	0	0	999.690201	2,267,404
2011/6/1～ 2012/5/31	999.690201	2,267,404	141	228.329614	500,833	13	11.973380	25,000	783.333967	1,823,261
2012/6/1～ 2013/5/31	783.333967	1,823,261	68	111.223429	234,382	10	10.729242	24,000	682.839780	1,524,861
2013/6/1～ 2014/5/31	682.839780	1,524,861	49	52.171509	103,089	2	0.985283	2,000	631.653554	1,222,196
2014/6/1～ 2014/6/30	631.653554	1,222,196	6	12.583764	24,105	0	0.000000	0	619.069790	1,204,029
2014/7/1～ 2014/9/30	619.069790	1,204,029	18	19.988657	38,972	0	0.000000	0	599.081133	1,209,693
2014/10/1～ 2014/12/31	599.081133	1,209,693	23	41.252014	82,317	0	0.000000	0	557.829119	1,118,090
2015/1/1～ 2015/3/31	557.829119	1,118,090	7	7.915100	15,408	0	0.000000	0	549.914019	1,089,576
2015/4/1～ 2015/5/31	549.914019	1,089,576	4	5.426619	10,595	1	2.547305	5,000	547.034705	1,077,782
2015/6/1～ 2015/6/30	547.034705	1,077,782	6	6.611908	12,897	0	0.000000	0	540.422797	1,008,907
2015/7/1～ 2015/9/30	540.422797	1,008,907	19	21.120556	36,825	0	0.000000	0	519.302241	884,879
2015/10/1～ 2015/12/31	519.302241	884,879	13	15.648676	27,175	0	0.000000	0	503.653565	908,242
累計	—	—	1,460	2,758.854830	4,931,902	1,647	2,542.508395	3,819,000	—	—

- 注: *1 運用開始日は1999年2月1日です。
 *2 運用開始時の前期末口数・総純資産は、初回販売口数・総純資産となっております。
 *3 期中解約総額は、解約手数料が差し引かれております。
 *4 期中販売総額には、販売手数料が含まれておりません。
 *5 期中販売及び期中解約の件数、口数及び件数は、払込期限及び解約手続基準日の翌月に反映しております。

2. 運用実績推移(1口当たり)

単位:円

計算期間 *1	前期末 純資産	期中損益	期末 純資産*2	期間 騰落率	運用開始来 騰落率*3	年平均 騰落率
1999/2/1～ 1999/5/31	1,000,000	-65,947	934,053	-6.59%	-6.59%	—
1999/6/1～ 2000/5/31	934,053	23,337	957,390	2.50%	-4.26%	-3.21%
2000/6/1～ 2001/5/31	957,390	163,070	1,120,460	17.03%	12.05%	5.17%
2001/6/1～ 2002/5/31	1,120,460	-59,150	1,061,310	-5.28%	6.13%	1.84%
2002/6/1～ 2003/5/31	1,061,310	448,756	1,510,066	42.28%	51.01%	11.78%
2003/6/1～ 2004/5/31	1,510,066	-115,011	1,395,055	-7.62%	39.51%	7.41%
2004/6/1～ 2005/5/31	1,395,055	83,262	1,478,317	5.97%	47.83%	7.55%
2005/6/1～ 2006/5/31	1,478,317	266,151	1,744,468	18.00%	74.45%	10.15%
2006/6/1～ 2007/5/31	1,744,468	42,653	1,787,121	2.45%	78.71%	9.45%
2007/6/1～ 2008/5/31	1,787,121	498,875	2,285,996	27.92%	128.60%	13.78%
2008/6/1～ 2009/5/31	2,285,996	-66,539	2,219,457	-2.91%	121.95%	11.80%
2009/6/1～ 2010/5/31	2,219,457	-160,998	2,058,459	-7.25%	105.85%	9.34%
2010/6/1～ 2011/5/31	2,058,459	209,647	2,268,106	10.18%	126.81%	10.28%
2011/6/1～ 2012/5/31	2,268,106	41,586	2,309,692	1.83%	130.97%	9.82%
2012/6/1～ 2013/5/31	2,309,692	-76,576	2,233,116	-3.32%	123.31%	8.60%
2013/6/1～ 2014/5/31	2,233,116	-298,202	1,934,914	-13.35%	93.49%	6.10%
2014/6/1～ 2014/6/30	1,934,914	9,986	1,944,900	0.52%	94.49%	6.13%
2014/7/1～ 2014/9/30	1,944,900	74,346	2,019,246	3.82%	101.92%	6.50%
2014/10/1～ 2014/12/31	2,019,246	-14,888	2,004,358	-0.74%	100.44%	6.31%
2015/1/1～ 2015/3/31	2,004,358	-23,002	1,981,356	-1.15%	98.14%	6.07%
2015/4/1～ 2015/5/31	1,981,356	-11,130	1,970,226	-0.56%	97.02%	5.94%
2015/6/1～ 2015/6/30	1,970,226	-103,343	1,866,883	-5.25%	86.69%	5.28%
2015/7/1～ 2015/9/30	1,866,883	-162,907	1,703,976	-8.73%	70.40%	4.22%
2015/10/1～ 2015/12/31	1,703,976	99,331	1,803,307	5.83%	80.33%	4.75%
累計	—	803,307	—	—	—	—

*2 期末純資産は、1口当たりの表記となっておりますので、お客様の保有口数を乗じた金額が
お客様の保有する口数に対する時価となります。

*3 運用開始来騰落率は、運用開始日の1口当たり純資産価額100万円を基準として算出されています。

*4 パーセンテージの計算は小数点以下第3位を四捨五入しています。

注: 1) 純資産は、契約締結前交付書面2. 13項に基づいて算出されております。

2) 期間騰落率及び運用開始来騰落率、年平均騰落率の計算方法は、次の通りとなっております。
なお、すべて1口当たりの価額にて算出しております。

① 期間騰落率

$$= \frac{\text{期末純資産(期中配当含む)} - \text{期初純資産}}{\text{期初純資産}} \times 100$$

② 運用開始来騰落率

$$= \frac{\text{期末純資産(期中配当含む)} + \text{前期末までの配当累計} - \text{運用開始時純資産}}{\text{運用開始時純資産}} \times 100$$

③ 年平均騰落率(設定時より1年以上経過した場合のみ記載。)

$$= \text{運用開始来騰落率} \div (\text{運用日数(片端落し)} \div 365)$$

B. ファンドの概況

先物運用顧問会社による運用状況

プラスに寄与したセクター	通貨	株価指数	エネルギー	
マイナスに寄与したセクター	金利	金属	農産物	その他商品

為替相場は、ユーロは当初の1.12ドル水準から1.15ドル弱へのユーロ高から、追加緩和観測が強まると一時1.054ドルへ下落。ECB理事会を経て1.10ドルへ買い戻されました。ドル円は、当初の120円水準からFRBの年内利上げ方針を確認し123.67円へ円安となりましたがECB、FRB、日銀会合を経て円買いに転じ期末には120円に接近しました。

主要国の短期金利は、ゼロ金利解除となったドルでは上昇、追加緩和が決定されたユーロではマイナス幅を拡大、円では横ばいとなりました。長期金利は、当初の株価上昇場面では利回りが上昇したもののFRB、ECBの金融政策変更への反応は限定的で、次第に横ばいとなりました。国内ではわずかながら低下傾向となりました。

主要国の株価指数は、8月以降の急落が一服し反発に転じました。しかし、中国経済の減速懸念やドル高を背景に国際商品価格が下落、資源セクターが圧迫され全体に伸び悩み、資源国・新興国経済への懸念が強まると反落。ECBの緩和が支援となった一方、米国株は利上げ決定を実態経済の強さを示すものとし底堅い推移となりました。

原油相場は、ブレントは当初の48ドルから石油業界の新規投資縮小で54ドルへ上昇しました。しかし、足元の需給は緩和しており反落。中国経済の減速で需要の鈍化が見込まれる一方、OPEC加盟国の減産も見込めず、イランからの輸出再開見通し、米国の原油輸出解禁で供給過剰感が一段と強まり、期末には36ドルへ下落しました。

金相場は、ドル高の一服感から当初の1,105ドルから1,190ドルへ上昇しました。しかし、FRBの年内利上げ方針、ECBの追加緩和見通しによるドル高で一時1,050ドル割れまで急落。12月ECB理事会、FOMCを経てユーロ等主要通貨がドルに対し強含みに転じたものの、クリスマス休暇もあって反発は限定的なものにとどまりました。

トウモロコシ相場は、米国トウモロコシが天候不順に見舞われながらも2年連続の豊作となったため、当初の400セント接近への上昇から反落しました。政権交代にともないアルゼンチン産トウモロコシの輸出拡大が見込まれ、米国ではエタノール向け需要増加が見込まれたものの、原油安が圧迫となり360セントへ下落しました。

C. 資産推移

